

第2回総合振興計画等の策定に係る意見交換会 会議録【意見の要旨】

日時 令和3年11月5日(金)
午前9時00分～午前11時00分
場所 浜田市役所4階 講堂

[進行／政策企画課企画係長]

意見交換		(午前9時50分～)
布施議員	<p>パブリックコメントの意見が190件近くある中で、110件が歴史文化保存展示施設に対する意見だったということだが、この点は今後4年間の市民の大きな関心事だと思っている。この部分について、総合振興計画後期基本計画の中で、どのような考え方で進めていくのか。パブリックコメントに回答はあるが、もう少し踏み込んで説明してもらいたい。</p>	
副市長	<p>パブリックコメントで多くの意見をいただいたこと、また、市長選挙でもこの是非についての意見を踏まえた選挙結果だったということは承知している。</p> <p>以前からお伝えしているように、今の郷土資料館は老朽化し、これを使い続けるのは厳しいということを改めて説明しなければならない。また、場所や事業費についても、改めて説明していかなければいけないと考えている。</p> <p>総合振興計画には、これまでどおり整備をするという基本的な考え方は変えていないが、そのプロセス、手順等については、改めてしっかりとやっていかなければいけないということで、パブリックコメントの回答をさせて頂いている。詳細については12月定例会議の冒頭にある所信表明の中で、市長の考え方をお伝えできるので、それを聴いていただきたい。</p> <p>ただ、必要性については皆さんにも認識頂いていると思うが、市民の皆さんの意見を聴くことや、こちらからの説明が足りていない部分があることは認識している。その点については、今後、しっかり対応していきたい。</p>	
布施議員	<p>市民の意見をしっかり聴くという点に乖離がある。多くの市民の意見を聴くということで今までいろいろ説明されているが、理解されていない方がおられる。</p> <p>これまで以上に必要性や事業費、そういった点を地域に出かけてしっかり市民の皆さんと意見交換しながら進めていかないと理解してもらえない。</p> <p>今まで以上に市民説明会等、そういった機会をしっかり設けていただきたい。</p>	
副市長	<p>「地域に出かけて市民の皆さんの声を聴く」という部分が不足していたということは、市長も感じている。</p> <p>これまでも、地域協議会や地区まちづくり推進委員会とは意見交換をさせて頂いているが、そういった場は限られた人だけが出席する場になってしまう。</p> <p>そうではなく、どなたでも参加できる説明会や意見交換会を、地域に出かけて開催することが必要ではないかということは市長も話している。</p> <p>そういった点を踏まえ、12月定例会議の所信表明ではお話させてもらおう。</p>	

小川議員	<p>地域経済や地域の疲弊という点についての原因や背景に関する記述というのがない。浜田市が一番の課題は人口減少問題とそれに伴う経済の縮小だと言われているが、その背景や原因については、きちんと分析しないと、対策や今後の方向性が抽象的になる。</p> <p>そこへ至った原因については、国の動きというものも関連しており、地方自治体が国の施策や県の動向に対して問題提起しにくい部分もあると思うが、地域だけではできない部分は、全体の国づくりの中にも原因があると思うが、その点についての考えを聞きたい。</p>
副市長	<p>人口減少に至った原因については、都会への人の流れが止められていない、若い人の働く場がない、生活のしやすさが見えない、といったことが大きな要因だと考えている。</p> <p>今回は特に、若者をキーワードとして掲げており、特に、生産年齢人口を増やしていきたいということで、若者（20歳～39歳）の動きを変えていきたい。</p> <p>この点については、浜田市だけではなく、地方の都市すべてに共通している部分があると思っている。</p> <p>浜田市の特異な部分としては、第一次産業を中心にやっているため、県東部には若者が働きやすい場がたくさんあるが、西部にはないということで、企業誘致や雇用の場の確保に取り組んでいる。また、中には農林水産業に従事したいという若者のためにその受け皿を作るなど、浜田市ならではの課題と施策を進めている。</p> <p>市長も全国市長会の副会長であり、浜田の実情が地方の小規模都市の実情につながっており、国へ要望を伝えるということもできるようになった。そういった実情を国に訴えながら地域をしっかりと支えていきたい。</p> <p>この総合振興計画には、具体的なところは記述していないが、これをベースにした個別計画の中で、そういった点は示させていただき、人口減少を少しでも抑える施策を進めていきたい。</p>
牛尾議員	<p>市民を守るために食糧の自給率を上げるという目標を掲げるべき。</p> <p>水産業で言うと、喫緊の課題は底曳船の老朽化にあり、新船を建造しなければ今の状況は確保できない。稼ぎ頭である水産品が無くなれば水産業全体に影響が出る。後期基本計画の肝は、水産業で言うと、新船を建造できるかどうかにあると考えているが、その表現を避けて記述しているように感じる。</p> <p>農業については、4～5年すれば米を作る人は半分以下になるという状況にある。この状況について、どこにも触れていないのではないかと。日本は農耕民族で、水稲が基本にあるので、その点についてきちんと記述する必要があるのではないかと。</p>
産業経済部長	<p>水産業は漁船の老朽化や人員不足などにより厳しきは増しており、後期基本計画の目標については、沖合底曳き網漁船団やまき網漁船団、定置網漁船団の維持ということで3つの目標を掲げている。</p> <p>これについては、水揚が減少している中で、まずは、地元の安定的な水揚げの確保、また、維持増大を図っていくため、目標に掲げる漁船団の存続ということが重要であるということで設定しており、「浜田漁港周辺エリア活性化計画」にも目標を掲げている。</p> <p>新船の建造に関する記述を避けているわけではないが、まずは、現状を維持するという目標設定している。</p> <p>農業の部分の「水稲」に関する記述については、検討する。</p>

副市長	<p>水産業の新船建造については、24 頁に「漁船の新船建造に向けた」という記述をしている。市が船を建造することはできないので、現在の船主に新船を建造していただき、市も応援するという意味で記載しており、何とか実現したいと考えている。</p> <p>農業について、水稻というのは農地を守るという意味で、土地を荒らさない、中山間地域の皆さんが生活していくためには欠かせない部分であり、29 頁に「水稻による農地保全」ということで記述している。</p>
牛尾議員	<p>漁業は新船を建造しないと関連産業は全部だめになる。新船建造については、喫緊の課題である。後期基本計画では、喫緊の課題が目の前にある以上、国や県の関与について記載しながら、最優先で取り組まなければならない課題として記載すべきではないか。</p> <p>水稻について、作る人がいなくなり、梨や柿、ブドウだけでは生きていけない。そう意味でも水稻は基本であり、最低限、水稻を守っていくというような考え方が必要ではないか。</p> <p>食料の安全保障や自給率を向上するという言葉が、第一次産業の中に一行もないということが考えられない。</p>
	(意見)
芦谷議員	<p>パブリックコメントや地域協議会、元気な浜田づくり市民委員会での意見があるが、歴史文化保存展示施設に関する意見はパブリックコメントしか出てこない。</p> <p>パブリックコメントの意見がなぜ歴史文化保存展示施設に偏ったのか、市としての考えは。</p>
政策企画課長	<p>歴史文化保存展示施設に関する意見は地域協議会や元気な浜田づくり市民委員会では出てこなかったが、今回の選挙の争点といったところで、パブリックコメントの期間が選挙期間と時期的に重なったことから、集中的に寄せられたのではないかと考えている。</p> <p>地域性等については分析していないが、一つの地域でまとまって出てきた内容ではないと思っている。</p>
芦谷議員	<p>これまでパブリックコメントの意見というのはここまで多くなかったと記憶している。前回のパブリックコメントと比較して、どの程度件数が増えたのか。</p>
政策企画課長	<p>前期基本計画策定の際は 20 件程度だったと思う。</p> <p>今回は 119 人から 182 件の内容のパブリックコメントをいただき、その内 110 件が歴史文化保存展示施設に関連するご意見だった。</p> <p>それ以外のご意見は 72 件いただいており、歴史文化保存展示施設を除けば、前期基本計画と同程度のご意見をいただいたものと考えている。</p>
芦谷議員	<p>これほど市民の思いが偏るといえるのは、市政運営のかじ取りが難しいのではと考える。ついては、今後、しっかりと、幅広く、住民の意見を踏まえ、合意形成を図っていただくことをお願いします。</p>
	(意見)
串崎議員	<p>「浜田市は物価が高くて、給料が安いのでどうにもならない。」という話を聞いた。そのような視点については、この計画のどの辺りに記載してあるのか。</p>
地域政策部長	<p>この度の後期基本計画の中で、市内の物価の状況や給与水準に関する記述については記載していない。</p>

串崎議員	そういった点をきちんと対応しないと、若者も帰ってこない。大事な視点だと思うので検討してもらいたい。
地域政策部長	後期基本計画では、若者の移住定住という視点については盛り込んでいる。その中で、先ほどの視点についても重要と考えるので、整理させていただく。
肥後議員	環境省のホームページに、2050年二酸化炭素排出実質ゼロ実施表明自治体というのが載っている。島根県では松江市、邑南町、美郷町が手を挙げている。2025年までに先行のモデル地域も定めている。浜田市が手を挙げていない理由はあるのか。
市民生活部長	浜田市もこれまで太陽光パネル設置への助成等行ってきたが、十分ではなかったと認識している。 国も2050年のカーボンニュートラルに向け、様々な施策を進める中で、浜田市においても力を入れていきたいと考えており、ご質問の先行のモデル地域に手を挙げるということについても検討したい。
肥後議員	公共施設の再エネ導入について、太陽光発電システムや蓄電池等の計画はあるのか。
市民生活部長	公共施設への太陽光発電の設置について以前検討した際、施設の屋根が太陽光パネルを設置できる構造になっていないこと、太陽光パネルの耐用年数よりも先に屋根の補修が必要になること、廃止や建替えの計画が既にされている等の理由から、費用対効果が望める施設がないということで実施してこなかった。 現在は、太陽光パネルの設置については屋根だけでなく、駐車場などの空き地など、違う視点から検討したいと考えている。 その点については74頁の主な代表的な目標に記載している。
肥後議員	自然災害が多くなっているが、まちづくりセンターなどの避難場所の非常用電源の設置について考えはあるか。
市民生活部長	国も、再生可能エネルギーの利用にあたっては、災害避難所等の体制を高めるために太陽光パネルの設置と蓄電池等の設置を進めるようにということが示されていることから、浜田市でも検討したいと考えている。
柳楽議員	51頁に「地域包括ケアシステムの構築」とあり、地域包括支援センター機能の強化を図るとある。 来年度から全ての事業ではないが、社会福祉協議会に委託することになっており、今後も民間へ委託していく方向だと思うが、民間と連携しているという視点がここに記載されていない。その点についての考えを聞かせてほしい。
健康福祉部長	地域包括支援センターについては、社会福祉協議会へ委託するということが1年前に決定し、1年を掛けてその連携方法について協議している。 これ以外の民間との連携については、指定管理者制度等により進めている。
柳楽議員	計画の中に「今後も民間と連携して取組を進めていく」といった記載は必要ないということでしょうか。
総務部長	民間との連携については、行財政改革大綱や行財政改革実施計画の中で盛り込み、総合振興計画とリンクして進めたいと考えている。

足立議員	<p>数年前までは400人を維持していた出生数が令和2年度で296人となっている。ここ数年の間に300人を切った。この状況だと、毎年100人減っていくことになる。これが5年先、10年先になった時に今の学校の体制が維持できるのか。</p>
教育部長	<p>数年前までは1学年に400人から450人、9学年で4,000人というイメージがあった。現在、生まれた子どもは300人で、これが6年後には1年生になる。そうすると9学年で3,000人となり、10年後には1,000人減少する。市内の大規模校は300人前後なので、単純計算で3つの学校がなくなる。</p> <p>だからといってすぐに学校が減るというのではなく、複式学級や少数学級により学校は残ることになる。教育委員会では学校統合について、審議会で議論しており、平成30年に今後10年間に係る答申を受け、現時点では美川や石見小の改築といったことが検討課題となっている。</p> <p>これまでは、10年間隔で学校の見直し等を進めてきたが、急激な子どもの減少を受け、この10年間隔をどうするのかという点については、教育委員会でも検討したいと考えている。</p>
足立議員	<p>子どもの数が少なることを認識している中で、地域づくり、まちづくりという部分はどのように落とし込んでいるのか。</p>
地域政策部長	<p>地域のまちづくりの在り方というところで、学校の位置づけは非常に重要と認識している。本年4月から「浜田市協働のまちづくり推進条例」を施行し、自治区制度に代わる新たなまちづくりに向けた取組を進めている。</p> <p>この中で、小学校単位で設置しているまちづくりセンターを地域の活動拠点と位置づけており、地域の活動については、学校等と連携しながら、まちづくりセンターでしっかりと対応していきたい。</p>
三浦議員	<p>前回の意見交換で、市長がどのように後期基本計画に基づいて浜田市を作っていくのかという所、何を大切にして「住みたい 住んでよかった 元気な浜田」を作るのか、そのキーワードを是非導き出して伝えて欲しいという要望を伝えたが、残念ながら記載されていない。</p> <p>「浜田市協働のまちづくり推進条例」に基づき、まちづくりは行政だけで行うのではなく、市民と一緒に作っていくものだというのを、もう一度考えるなら、この計画を全て読み込まなくても理解できるようなメッセージが必要。</p>
地域政策部長	<p>前回の意見交換での意見をいただき、内部でも検討を行った。ご指摘のように、これだけでは浜田らしさが出ないということもあるが、今回は、後期基本計画であり、基本的な構想や考え方は前期基本計画を踏襲するという点、また、若者の移住定住対策という視点が入っていること等から「住みたい 住んでよかった」というキャッチコピーを踏襲することとした。</p>
三浦議員	<p>「住みたい 住んでよかった 元気な浜田」という将来像はこのままでもよい。何に注力して「住みたい 住んでよかった 元気な浜田」を作るのかが分かるようなキャッチコピーがあればよいのではないかと提案をしている。</p> <p>前期を踏まえて後期では変更するのが計画ではないか。変わらなければ課題も解決できない。新しい事にチャレンジしながら「住みたい 住んでよかった 元気な浜田」を作るのであれば、新しいチャレンジを応援する施策が出てくる。そうであれば、そのメッセージを発信すればよいし、その部分が見えない。</p> <p>市長がどう思っているのか、その部分を計画の中に表現してもらいたい。</p>
副市長	<p>この点については市長の考えもあるので、この場で回答はできないが、いただいた意見は持ち帰って協議させていただきたい。</p>

三浦議員	<p>目標設定について、K P Iは、その事業ごとに目指すゴールを追っていくために何を追いかけるのかという目標であり、最終的なゴールではない。</p> <p>最終的なゴールが目標になっているもの、追いかけていく参加人数等が目標になっているもの、項目によってバラツキがある。全体でもう一度見直した方が、事業を振り返った際に分かりやすい。</p>
地域政策部長	<p>目標設定については、前回ご指摘いただき全体的に見直しを行った。整合性の取れていない目標等については整理したところだが、依然、全体的に目標設定についてバラツキがあるということなので、改めて整理する。</p>
教育長	<p>K P Iの設定について、総合振興計画に掲げる目標と、この計画を受けてそれぞれの実施計画の中で掲げる目標があり、大きな枠で言うと、総合振興計画はゴール目標を掲げ、実施計画でK P Iを掲げる方が分かりやすいのではないかと考えている。</p> <p>ただ、市民の方と一緒に何かやろうとする時に、K P Iであれば研修会の数を増やすとか参加する人の数を増やすために努力するというのが、行動目標としてはわかりやすい。結果として浜田を好きになる人が増えたかどうかというゴールは、K P Iの積み重ねの結果になると考えている。</p>
三浦議員	<p>73 頁の「地球温暖化対策」について、2050 年の脱炭素社会を意識して順番を見直しているのは喜ばしい。しかし、実際に脱炭素社会に向けて何をしていくのかということで、主な事業や取組を見ると、前期基本計画とほぼ変わっていない。この状況で脱炭素社会が目指せるのか、この意気込みで達成できるのか。</p>
市民生活部長	<p>地球温暖化対策というのは大きいテーマであり、市が関与できることや予算も限られており、現状としては記載している部分しかできないが、例えば、企業や団体の力を借りて、市ができること以上の対策が可能と考えている。</p> <p>また、これまで普及啓発、市民の意識高揚といったところが十分ではなかったと考えており、そういった点について、マンパワーを充実させて対応していきたい。</p>
三浦議員	<p>そこを記載するのが計画ではないか。項目の順番を入れ替え、この項目への思いを表現したのであれば、予算が限られているというのはおかしい。予算を付けない計画は、意気込みだけで意味がない。予算もしっかり獲得しやっていくという意気込みがあって計画に載せていくのではないか。</p> <p>今までの事業でできていなかった部分をやっていくというだけでなく、市がリーダーシップを取って何かを新しくやっていくというものがあって計画へ載せるべきでは。</p>
市民生活部長	<p>具体的な話や計画に書ききれなかった部分については、現在、準備をしているところなので、記載については検討する。</p>

西田議員	<p>中国電力2号機の固定資産税が令和5年から、ふるさと寄附が好調の2点があるので財政的な危機感が薄い。ふるさと寄附や中国電力2号機がない場合を想定して、浜田市のまちづくりを真剣に考えなくてはならない。</p> <p>具体的な中身は今後に期待するが、もっと危機感を持たないと大変なことになる。計画期間は4年だが、将来的な30年、50年先の浜田市のことも視野に入れながら、計画を進めなくてはならない。</p>
政策企画課長	<p>人口推計については、今回から住民基本台帳の数値で追っていきたいと説明しているが、その理由として、毎年数字を把握したいということもあるが、浜田市の特徴である矯正施設、また、令和2年度の国勢調査では、中国電力2号機の関係で来ている人もカウントされており、国勢調査では数字が見えにくいという理由もあり変更した。</p> <p>また、今回、人口を厳しく推計したということで、人口減少対策等について、後期基本計画の中で示しているが、合わせて、人口減少は止められないということで、人口が減っても持続可能なまちづくりを目指していくといった視点も、計画の中に含んでいる。</p> <p>そうした視点を踏まえ「住んでよかった」に重点を置いた計画書としており、人口が減っても持続可能なまちづくりを目指していくこと、また、これだけ人口が減る中で、先を見据えて進めていかなければならない対策というものを掲げ、計画を作成した。</p>
西田議員	<p>人口減少対策は、増やすことは大事だが、それと合わせて「住んでよかった」という浜田の魅力を作ることで、今浜田に住んでいる人が、どれほどこの浜田に魅力を感じているか、幸せ感をどれだけもっているかが重要で、今住んでいる市民の生活を充実させることが、浜田の魅力になる。この点も合わせてバランスよく財政運営をしていただきたい。</p>
	(意見)
笹田議員	<p>市長選の結果について、争点に「歴史文化保存展示施設」があったと思うが、8年間の久保田市政に対する評価として捉えていただきたい。</p> <p>我々22人も市民の代表として挙がってきた。執行部と議会は車の両輪と言われるが、市側が変わらないといけないのは、これまでの8年と違って、市民の半分が市政に対してNOと言っていること。もっと覚悟を持って、どこを見て市政運営をしているのか、市民のために議会や総合振興計画があること、それをもう一度考え直してやっていただきたい。</p> <p>今回の厳しい選挙を行う中で、市民の思いが今まで以上に市や議会に向いてくる。その点は一緒になって市民のために働いていきたいと考えており、総合振興計画が市民にとって笑える暮らしのできる計画であって欲しい。</p> <p>今のままでは、あまり変わっていない印象なので、その点も覚悟を持ってやっていただきたい。</p>
	(意見)